

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

- **4学期（クォーター）制を活用した短期留学プログラムの拡充による留学生受入れ増加（+133人）**
第2クォーターに短期留学プログラム（受入）を開講することにより、カリキュラムの関係で1学期間あるいは通年で日本に留学することが難しい米国等からの留学生の受入れが増加。また、海外の協定校などからのスタディ・トリップを積極的に受け入れた。主な受入れ大学は以下のとおり。
米国：ノートルダム大学、アレゲニー大学、ノースウェスト大学（ワシントン州）
シンガポール：南洋理工大學、シンガポール国立大学
オランダ：フローニンゲン大学、エラスムス大学ロッテルダム
- **研究・教育に関する新規連携協定の締結**
以下は一例。
慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）とハーバード大学ライシャワー日本研究所が協定締結（5月）
北京外国語大学との間で包括協定締結（10月）。
医学部とインスブルック医科大学が包括協定締結（11月）。
- **国際的研究拠点の開設**
慶應義塾大学サイバー文明研究センター（CCRC）
4月、KGRI内にサイバー文明研究センターを開設。共同センター長として、カーネギーメロン大学やペンシルバニア大学で研究を主導してきたDavid Farber博士を招聘。7月18日、キックオフイベント、12月7日、シンポジウム“KGRI Great Thinker Series – Cyber Civilization: Prologue”を開催。Farber教授は、11月27日、**アメリカ科学振興協会（the American Association for the Advancement of Science [AAAS]）のフェロー**に選出された。



北京外国語大学協定締結式。併せて現地学生向けに慶應義塾大学の研究紹介およびパネルディスカッションイベントを実施



CCRC キックオフイベント

IBM Q Network Hub @ Keio University

5月、理工学部内に、最先端量子コンピューター研究拠点としてIBM Q Network Hubを開設。IBM Qは、IBM（米国）で開発されている最先端の汎用量子コンピューターで、そのIBM Qのクラウド利用を可能とするアジア唯一のハブ。

ガバナンス改革関連

- **第2期グローバルアドバイザリーカウンシル(Global Advisory Council: GAC)の設置・運用**
海外の著名大学の学長等から構成される、塾長諮問機関（GAC）の新メンバーの一部が決定。
- **大学ガバナンス強化のための組織改編**
4月、多様性を認める学内環境の整備を目的に、協生環境推進室（Office for Equity, Diversity, and Inclusion）を設置。
11月、IR機能と国際広報機能の拡充のため、グローバル本部（Global Engagement Office: GEO）を設置。



グローバル・エンゲージメントウェブサイト

教育改革関連

- **GICセンター（Center for Global Interdisciplinary Courses）の実施運営**
全学部生を対象とする英語またはその他の外国語によるプログラム。GICセンターの設置または認定科目のうち、在学中に40単位以上を取得した学部学生に修了証（Certificate）を授与。平成30年度は42名がプログラムを修了。累計47名が修了した。
- **経済学部・大学院医学研究科とドイツ・ケルン大学との遠隔授業の実施**
平成30年度秋学期にドイツ・ケルン大学との遠隔システムを使った英語による共同授業を実施（日本側受講者数約120名）。「長寿」をテーマに医学・経済学など異分野の講師が遠隔で講義し、意見交換が行われた。それぞれの大学で単位が認定される。次年度も実施が決定。
- **無料オンライン講座 FutureLearnでの新コース開講**
MOOCs配信事業者のFutureLearnにおいて、7月から“The Art of Washi Paper in Japanese Rare Books”、9月から“Exploring Japanese Avant-garde Art Through Butoh Dance”を開講。合計6コースとなった。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

- **国内外特許登録数目標達成**
本学の国内外の特許登録（累計）は、当初設定の最終年度目標値1,290件を超え**1,591件**となった。
- **QS世界大学ランキング（分野別） 2019**
QS World University Ranking by Subject 2019において、5大分野すべてと20の小分野でランクインした。
大分野（Broad Area）1・小分野（Subject Area）3で世界トップ100位内に入った。
世界100位以内の大分野：社会科学・経営学（Social Sciences & Management） **82位**
世界100位以内の小分野：
解剖学・生理学（Anatomy & Physiology） **36位**タイ
歴史学（History） 51-100位
政治学・国際関係学（Politics & International Studies） 51-100位
- **米国クラリベイト・アナリティクス社「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング」2018年版**
高被引用論文数174、高被引用論文の割合0.9%で、総合15位（私立大学では第1位）。
分野別ランキングでは、生物学・生化学分野9位、免疫学分野5位、分子生物学分野8位。

■ 国際的評価の向上につながる取組

- **国際会議・国際イベントの開催**
 - 「**米国医学アカデミー会長 Victor J. Dzauと高齢化問題を語る**」**Keio-APRU人口高齢化ハブ-ハイレベル・ポリシー・ディスカッション・ミーティング（4月14日）**
APRU（環太平洋大学協会）の「人口高齢化研究ハブ」研究の一環。日米の研究者・専門家による政策協議。
 - CESUN Conference（6月20-22日）**
システムデザイン・マネジメント研究科が、**アジアで初めてCESUN（Council of Engineering Systems Universities）Conference 2018**を共催。
 - AI for Everyone: Benefiting from and Building Trust in the Technology（8月31日）**
APRUとGoogle社によるAIの社会応用に関する異分野横断研究プロジェクト。本学がアカデミックリードを担当。
香港科技大学にて実施。
 - 英国大学協会来訪（10月31日）**
英国大学協会および英国の大学関係者が来訪。日英両国の大学の教育・研究の連携促進について意見交換。
 - 「**慶應義塾大学・IBMと考えるイノベーションとテクノロジーの未来（11月6日）**」
AIが社会に与える影響やAIを活用できる人材の育成などについて議論。
 - 第8回 Experience Japan Exhibition 2018（11月17日）**
ロンドンにてブリティッシュカウンシルと共催で行う日本留学フェア。約500名来場。
 - 「**メルケル首相、塾生と語る（2月5日）**」
アンゲラ・メルケル ドイツ連邦共和国首相と学生との対話イベント。
 - 現代韓国研究センターシンポジウム「北東アジアの新しい秩序構想」（2月9日）**
日韓の専門家による現在の朝鮮半島情勢に関する分析と評価と討論。



メルケル首相と学生との対話イベント

【海外の大学との連携の実績】

交流協定件数：前年度比+1件の計**528件**、ダブルディグリープログラム協定件数：**29件**、協定校数：前年度比+2校の計**355校**となった。クロス・アポイントメント制度を利用して、学部・研究科において受け入れた海外副指導教授を通じて、海外の大学との研究連携を強化。海外副指導教授は**94名**任用した。

■ 自由記述欄

- **英国オリンピック委員会（BOA）・英国パラリンピック委員会（BPA）との交流を通じたグローバル化**

2020年東京大会における英国代表チームの事前キャンプ受け入れ準備として、アスリートのテストキャンプやスタッフの視察訪問を受け入れている。スポーツを通じた交流だけでなく、教育、研究、さらには、施設面の整備、異文化に対する組織としての適応力にいたるまで、広範な交流を行っている。10月にはBOAが「最高のパフォーマンスを保つには」と題し、学業・研究・業務すべてに通じるテーマで学生教職員向けのセミナーを開催した。

BOA主催セミナー

